

式 辞

やわらかな日差しに木々の芽もふくらみ始め、春の息吹を感じる頃となつて参りました。

本日ここに、PTA会長様をはじめ本部役員のご来賓の方々、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和三年度第七十回卒業証書授与式が挙行できますことを心から感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。ただ今、卒業生一人一人に卒業証書を手渡しました。凜とした表情に、たくましさ頼もしさを感じました。また、同時に卒業生の皆さんと過ごした数々の思い出がよみがえりました。本校を支え、発展させてくれたことを思い起こし、心から敬意を表します。

皆さんは、本校の校訓である「心美しき二中生たれ」「心強き二中生たれ」を目標に、一人一人がもてる力を十分発揮し、義務教育九年間の総まとめにふさわしい生徒に成長しました。時に、皆さんが一生懸命活動し表現する姿は、多くの方々へ感動を与えました。皆さんに出会えたこと、一緒に過ごすことができたことを本当にうれしく思うとともに、皆さんを誇りに思います。

このようなコロナ感染の激動の中を過ごした皆さんにとって、これらの経験から得たもの、学んだことがたくさんあります。人同士が互いに支え合うこと励ま合うことの大切さ、大変な苦勞をされている方々を理解し寄り添う気持ちをも

つこと、時間を大切にすること、協調や団結から生まれる感動、差別や偏見、誹謗中傷などの愚かさ、取り上げたらきりがありません。皆さんはこれまでに誰も経験したことのない中学校生活を過ごしてきました。この経験を無駄にすることなく将来に向かって歩いてほしいと思います。旅立つ皆さんへ、最後のメッセージを三つ送ります。

その一つは「夢を叶えるための努力をすること」です。人生は、よくマラソンに例えられます。約42キロの距離を走りきるのは簡単なことではありません。ある時は長い坂道に、ある時は冷たい雨に、またある時は足の痛み苦しめられ、途中であきらめてしまいそうになることもあります。でも、目標のゴールにたどり着くためには、一步一步、歩みを止めずにゴールを目指して前に進んでいくしかありません。そして、沿道にはたくさんの方が応援してくれ、その声援を自分の力に変えて頑張ることができるのです。これからの皆さんの人生にも、苦しいことやつらいことがあるでしょう。でも、一步一步歩みを止めずに、周囲の応援に耳を傾けて、夢や目標を目指して頑張してほしいと思います。

二つ目は、「命を大切にすること」です。戦争や災害で、事故や事件で、あるいは病気により、多くの失われた命があります。生まれてこれなかった命もあります。皆さんがこの世に生を受け、こうして立派に成長した奇跡を大切にしてください。すべての命は尊く、かけがえのないものです。だから、自分の

命も、人の命も大切にしていってほしいのです。そして、この与えられた命を生かして、これからの社会を担っていく一員として、社会のために、自分は何ができるかを問い続け、人の役に立てる大人になってほしいと思います。

最後に、「感謝の心をもつこと」です。今日、この会場で皆さんを見守っているご家族や先生たちは、ひたすらに皆さんの成長を願い、支え続けてきました。いつも、いつも、皆さんの笑顔を喜び、苦しみや悲しみに心を痛め、ひたすらに健やかな成長を願い、この日を心待ちにしてきました。今の自分があるのは、自分の努力はもちろんですが、家族、先生、友達、地域の方々が、自分を導いてくれたおかげであることを胸に刻んでください。

世界で活躍している日本人の一人で、硬式テニスの錦織(にしこり)圭選手は、島根県と松江市の県民・市民栄誉賞の授与に際し、「夢に向かって努力している最中」だからと言って、それを辞退したそうです。そして、「現役を引退したら地元で恩返しをしたい」と述べています。夢を叶えるために邁進し、そして自分を育ててくれた周囲に感謝の気持ちをもつ、そんな錦織選手の生き方・考え方を私はすてきたと思いました。

どうか皆さんも、「夢を叶えるための努力をすること」「命を大切にすること」「感謝の心をもつこと」この、私からのメッセージを心の隅におきながら、これからの人生をしっかりと歩んでいってほしいと思います。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。皆様のお子様はご覧のように立派に成長され、今日の日を迎えました。義務教育の九年間、大変ご苦労様でした。どうか今後とも、お子様の無限の可能性を信じ、温かい励ましと愛情をもって見守ってあげてください。三年間、勝田第二中学校の発展のために深いご理解とご協力をくださったことに対して改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

それでは卒業生の皆さん、勝田第二中学校とはお別れですが、皆さんの前途を祝福し、限りない前進を期待して、式辞といたします。

令和四年三月十一日

ひたちなか市立勝田第二中学校長

高木 克己